

庁議記録

日 時 令和3年12月28日(火)

17:00～17:30

場 所 テレビ会議室

【浦本副知事】

それでは、ただいまから庁議を開催します。早速議事に入りたいと思います。初めに、本日の協議事項として次の3件。1つ目、「第2期北海道創生総合戦略の改訂」、2つ目に「次期連携地域別政策展開方針」、3つ目として、「北海道グローバル戦略の見直し」、この3件につきまして、まずは地域振興監、その後は総合政策部長から続けてご説明をお願いします。

【地域振興監】

本日の庁議は、北海道人口減少問題対策本部及び北海道地域づくり推進本部を兼ねて開催ということでございまして、初めに北海道人口減少問題対策本部の議題といたしまして、「第2期北海道創生総合戦略の改訂」につきまして、資料1-1によりご説明させていただきます。まず改訂の考え方についてでございますが、項目1のとおり、新型コロナウイルス感染症の影響など社会経済情勢の変化を踏まえ、ポストコロナを見据えた地域創生の推進、人々の行動変容やデジタル化、脱炭素化など社会変革への対応、総合計画など関連計画との整合、この3つの視点に基づきまして、見直しを実施いたしました。

次に、主な改訂の内容といたしまして、項目2のとおり、感染症対策の充実に加え、人々の行動変容や地方への関心の高まりを踏まえた移住・定住の促進、観光関連施策を通じた交流人口の拡大といった施策の推進を図るとともに、社会変革の兆しをとらえ、ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組や、地域の可能性を広げるデジタル化の推進に取り組むこととしております。さらに、振興局毎の施策や振興局の区域を越えた広域連携による施策について、後ほど説明させていただきます連携地域別政策展開方針として取りまとめ、これを創生総合戦略の地域戦略として位置づけることといたしました。最後に、今後の推進に向けましては、先に改訂した総合計画や関連する計画と一体的な推進を図るとともに、北海道創生協議会など様々な機会を通じまして道民の皆様の声をお伺いしながら、市町村と一体となって、人口減少対策の推進を図ってまいる考えでございます。なお、主な改訂ポイント及び概要版につきましては資料1-2、資料1-3、そして本編につきましては、事前にお配りしているところでございます。まずは、以上「第2期創生総合戦略の改訂」についてのご説明をさせていただきました。

続きまして、北海道地域づくり推進本部の議題といたしまして、「次期連携地域別政策展開方針」の案について、資料の2-1によりご説明させていただきます。連携地域別政策展開方針は、北海道地域振興条例に基づきまして、総合計画が示す政策の基本的な方向に沿って6つの連携地域ごとに策定する地域計画でありまして、次期方針は、ただいまご説明した創生総合戦略の地域戦略としても位置づけることといたしました。策定に当たりましては、先に見直しを行った総合計画及び創生総合戦略の内容と連動させるとともに、新型コロナウイルス感染症対策やデジタル化、ゼロカーボン、関係人口の創出など時宜をとらえた施策の充実に図ってございまして、3の主なプロジェクトにお示しするとおり、各連携地域において、それぞれの地域の目指す姿の実現に向け、産官学など多様な主体と連携・協働して、地域の特性や資源などを活かした51のプロジェクトを推進することとしております。推進に

あたりましては、方針を効果的に推進していくため、各振興局におきまして、市町村や地域の関係者の参画を得ながら地域づくり連携会議を開催し、各プロジェクトの推進状況等の点検評価を行いながら、必要に応じて取組内容の充実を図るなどして、PDCAサイクルによる推進管理を行ってまいります。概要版については資料2-2、本編については事前にお配りしているとおりでございます。

次に資料2-3、「各振興局からの提案・要望」をご覧くださいと思います。連携地域別政策展開方針に基づく取組を効果的に推進していく上では、本庁の施策との一体的な推進が必要となることから、各振興局における本庁各部の施策に対する提案・要望について、毎年度、地域づくり推進本部の場において共有を図りながら、翌年度の事業等への反映を図ることとしております。令和3年度につきましては、胆振の水素ステーションの配置促進など、多くの振興局から「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組につきまして提案・要望があったほか、宗谷の森林整備におけるスマート林業の推進など、本道のデジタル化の推進、さらには日高の北海道型ワーケーションの普及展開など、関係人口の創出・拡大に向けた取組などにつきましても、それぞれの地域の実情を踏まえた提案・要望があったところでございます。関係各部におかれましては、こうした内容につきまして、各部の施策への反映などについて十分に検討の上、対応いただくようよろしくお願いいたします。以上、「次期連携地域別政策展開方針」の案についてご説明をさせていただきました。

最後に、この戦略の改訂及び政策展開方針の策定に当たりましては、各振興局におかれましても、非常に多くの時間を使いながらご協力をいただいているところでございまして、この場を借りしまして感謝申し上げる次第でございます。以上、創生総合戦略の改訂及び次期展開方針につきまして、成案としてご決定いただきたく、よろしくお願いいたします。

【総合政策部長】

それでは、資料3「北海道グローバル戦略の見直しについて」をご覧くださいと思います。初めに資料の1番、「北海道グローバル戦略の策定」についてでございますが、道では、急速に進展するグローバル化へ対応するため、2017年度に「北海道グローバル戦略」を策定し、「世界に売り込む」や、「世界とつながる」、「世界と向き合う」の三つの視点により、国際関連施策を推進してきたところでございますが、本年は推進期間の中間年に当たりましますことから、所要の見直しを行うこととしたものでございます。2番の「社会経済情勢の変化」についてでございますが、戦略策定以降、コロナ、そして、脱炭素化の動きといった社会経済情勢の変化に伴い、道内におきましても、インバウンド需要の消失や、人々の行動変容、価値観の変化など、大きな影響が生じているところです。3番「グローバル戦略の改訂」についてでございますが、こうした社会経済情勢の変化等に対応するため、グローバル戦略の見直しを進めるとともに、その改訂に当たりましては、北海道総合計画の中期的な推進方向との整合性やSDGs達成への貢献の観点などからも、検討を行ってきたところでございます。

下段の「見直しの主なポイント」でございますが、戦略が掲げる3つの視点ごとに、「視点①世界に売り込む」では、「ターゲットの明確化・重点化」を対応方向として掲げ、「食の高付加価値化、品目や輸出先国の重点化による道産食品の輸出拡大」に取り組むなど、各国、地域別の展開内容や、各分野別の重点をお示しながら、海外展開を図ることとしております。次に、「視点②世界とつながる」ですけれども、「在住外国人の受入環境整備」として、「相談体制の充実など、外国人が安心して働き、暮らせる環境づくり」に取り組むとともに、「視点③世界と向き合う」では、「新たな社会経済の変化への対応強化」として、「デジタル技術を活用した交流・ビジネス手段の多角化」に取り組むなど、見直しを行うこととしております。

資料の2枚目でございますけれども、4番「社会・経済情勢の変化を踏まえた展開方向」では、今回の改訂による

今後の展開にあたっての対応方向と取組イメージにつきまして、整理をしてございますので、これにつきましては後ほどご覧いただきたいと思っております。

この度のグローバル戦略の改訂を踏まえまして、道民の皆様をはじめ、多様な主体と連携をしながら、国際関連施策の推進を図ってまいりたいと考えておりますので、本庁各部、振興局の皆様の一層のご協力をお願いしたいと考えてございます。以上でございます。

【浦本副知事】

ありがとうございました。ただいまご説明をいただきました3件に対しまして、何かご発言等ございますでしょうか。よろしいですか。それではこの3件につきましては、案のとおり決定をいたします。それでは次に報告事項といたしまして、年末年始の天候状況と防災体制の徹底につきまして、危機管理監からご説明をお願いします。

【危機管理監】

年末年始を迎えるにあたり、天候の見通しと、防災体制の徹底についてお知らせします。資料の4をご覧ください。札幌管区气象台によりますと、29日から1月3日にかけて、冬型の気圧配置が続くため、日本海側を中心に断続的に降雪が続き、総降雪量が多くなるとの予報であり、大雪や吹雪、吹溜りによる交通障害に注意が必要です。また、29日及び1月2日は、北海道付近を低気圧が通過するため日本海側に加え、太平洋側でも雪が降る見込みです。気温が低くなる日が多く、体調管理や水道管の凍結にも留意が必要です。最新の気象情報に留意をお願いいたします。詳しい予報につきましては、後ほど資料の2ページ以降をご覧ください。

次に防災体制につきましては、今月初めには、十勝管内で発達した低気圧の影響により、大規模な停電が発生したほか、先日は札幌で24時間降雪量が観測史上1位の値を更新するなど、日本海側を中心に、積雪量が多くなっており、年末年始も警戒が必要です。本庁危機対策局では24時間体制で職員が常駐し、警戒に当たりますが、各部や振興局においても、暴風雪や大規模停電のほか、突発的な災害や危機管理事案も想定し、今一度、連絡体制と初動対応を確認いただくなど、防災体制の構築に万全を期していただきますようよろしくお願いいたします。以上でございます。

【浦本副知事】

ありがとうございます。ただいまのご説明につきまして、何かご発言ご質問等ございますか。よろしいですか。それでは最後に知事からコメントをお願いいたします。

【知事】

初めに、「第2期北海道創生総合戦略の改訂」及びその地域戦略となります「連携地域別政策展開方針」についてであります。本道の人口減少、依然厳しい状況にあるわけではありますが、一方で、コロナ禍において多様な働き方が拡大し、地方への関心が高まるとともに、ゼロカーボンといった新たな動きも見られます。こうした人々の意識や行動の変化を道外から人を呼び込む取組につなげて、ポストコロナを見据えながら、人口減少対策を進めていくことが必要であります。各部長、各振興局長におかれましては、道民の皆様が安心して暮らし続けられる地域づくりや移住交流、関係人口の拡大に、これまで以上にしっかりと取り組んでいただきたいと思っております。

次に「北海道グローバル戦略」、この見直しについてです。感染症の影響により、依然海外との本格的な交流再開の時期が不透明な状況にあります。一方で、本道の持続的な発展に向けては、ポストコロナを見据え、アジアを

はじめとする海外の成長力を積極的に取り込んでいくことが重要であります。今回のグローバル戦略の改訂の趣旨も踏まえ、食や観光をはじめ、それぞれの担当分野において、ターゲットとなる国、地域の重点化や明確化を図り、海外との交流を戦略的に展開をしていただきたいと思います。

最後に、年末年始における危機管理体制についてです。引き続き、コロナへの対応に万全の体制で臨むようにお願いをいたします。さらに、暴風雪や地震など、災害や危機事案の発生に備えて、迅速な応急対応が行えるように、すべての部局で、非常時の連絡体制など、今一度確認をしていただくこと、この徹底をお願いをいたします。以上です。

【浦本副知事】

ありがとうございます。各部、各振興局におきましては、ただ今の知事の指示を踏まえ対応されますようお願いを申し上げます。本日、庁議の議題としては以上でございますけれども、本日は仕事納めでございまして、幹部の皆さん、職員の皆さんに知事から一言ごあいさつをいただきたいと思います。知事、よろしく申し上げます。

【知事】

今年最後の庁議になりました。

本当に皆さん、1年間お疲れさまでした。昨日、今日と、道庁と別館の各課を、160か所ぐらいですか、回らせていただいて。何時間ぐらいかかりましたかね、4、5時間はかからなかったですかね。本当に皆さん、今年1年、現場で頑張ってください、本当は振興局も全部回りたいのですが、ちょっと回ることはできませんでしたが、皆さん、この1年間、大変な緊張感の中で取り組んでいただいたことに対して、本当に感謝を申し上げます。特に、新型コロナウイルスの対応でありますけれども、道民の皆様、そして事業者の方々に、この間、大変なご理解とご協力をいただいてまいりましたけれども、道においても、指揮室、そして保健所をはじめとする関係する部局で、円滑なワークチンの接種、医療提供体制の確保、事業者の方々への支援業務、個別の訪問、本当に様々取り組んでいただきました。総力を挙げて、この1年間取り組んでまいりました。また、各地域でも大変厳しい局面がありました。各振興局長、振興局が、管内における市町村の皆さん、関係の方と本当に連携を深めていただいて、地域独自の対策、これも講じていただいて、懸命に取り組んでいただいた。この関係する皆さんにも改めて、私からお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

変異株の置き換わりや人の流れの活発化、ゴールデンウィーク、夏休みの影響などで、全国的にも第4波、第5波ということで、大きな感染の波がありましたけれども、現在は、感染状況が一定程度落ち着いている状況にあります。しかし、この新たな変異株、オミクロン株が確認されているということで、全国的に感染が確認されていますし、また市中感染ということで、そのような事例も出ています。引き続き、高い警戒感を持って、気を緩めることなく対応していきたいと思います。皆さん、引き続き力を貸してほしいと思います。

感染対策以外の業務、当然あるわけでありまして。道民の皆様の暮らし、安全・安心、これを支えるための社会基盤整備や維持・管理、災害対応、道税の徴収、各種相談、本当に様々、コロナ対策も講じながら、知恵と工夫を凝らして、職員の皆さんが、外から、道民の皆さんから、なかなか皆さんのお仕事が見えにくいところもあるわけですが、そういう人たちが頑張ってくれている、この道政を支えていただいている、維持できているということでもあります。改めて、職員全ての皆さんに感謝申し上げます。

また、今年も、感染対策との闘い、本当に中心になってしまったということはあるのですが、一方で、北海道がもつ価値を国内外に発信する、また、大きな注目を集める、そういう年にもなったと思っています。

7月には、北海道・北東北縄文遺跡群の世界文化遺産登録ということで、長年の取り組み、北海道、世界の宝と認めていただきました。この貴重な財産を、将来に渡ってしっかりと引き継いでいく。そして、北海道の活性化に繋げていく、活かしていく。このためには、地域の方々とも、しっかりと知恵を絞っていかねばならないと思っています。

また、8月の東京オリンピック、これも、マラソンの競技を札幌でやるということが決まって、1年延期になって、また、緊急事態宣言が東京で出る中で開催されるという、もう本当に前例のない状況の中での大会になりました。本当に皆さんに様々な力をいただいて、何とか、マラソン、競歩、そしてサッカーの予選ということで開催をされた。このことによって北海道、札幌の街並みを世界の方に見ていただくということで、マラソンのコースもレガシーとして残ったと思っていますし、かねてから要望していたアイヌ舞踊の発信を何とかさせてほしいと話をしてきましたけれども、この点についても機会をいただきました。ウポポイや縄文の世界文化遺産、こういった多様な地域の素晴らしい資源を、さらに、それぞれではなく、連携をさせて魅力を一層高めていく必要があると思っています。

そして、9月のアドベンチャートラベル・ワールドサミット、これがアジア初の開催ということで、バーチャル開催ではありましたが、開催されました。これも、知事として、何とかアジア初、北海道で開催したいということで決定して、喜んで、ただバーチャル開催ということになりました。ただ、北海道に行きたいということでバーチャル開催の中で多くの方々から本当に評価をされて、それが2023年のリアル開催の内定ということに繋がったということで、これは本当に嬉しい話題だと思っています。2023年に向けて、アドベンチャートラベル・ワールドサミット、しっかりと成功に繋げていきたい。世界中に北海道の魅力を発信させていきたいと思っています。

本当に皆さんが工夫してくれて、取り組んでくれた中に、北海道の物産展というのは、日本一売れるということで、デパートでも大変な評価をいただいてきたわけですが、多くの方に来ていただいて、その物産展を開催することが出来ないということで、これをどうしようかという状況の中で、首都圏のスーパー、スーパーは日常生活で必要なものということで、営業が通常通りで、好調だということもあって、スーパーで小さい北海道フェアを多店舗でやろうと発想を変えて、取り組んでいただきました。このことによって、物産展で日本一でしたけれども、スーパーの販売も、今や数百店舗で展開されるということで、これも新しい発想、皆さんの取り組み、このことによって本当に売り先に困った皆さんの大きな力になったと思っています。そして、どさんこプラザを羽田空港に出したいと、ずっと思ってきたわけですが、玄関口、羽田空港にアンテナショップ、どさんこプラザをオープン出来ました。また、関西初出店ということで、あべのハルカスにも、どさんこプラザをオープン出来ました。これは逆に、コロナ禍でなかったら、優位な条件の中でオープンが出来なかったのではないかなと思っています。ですから、ここも、ある意味では次に繋がる一手として、羽田空港、あべのハルカス、これは、本当に皆さんの努力から生まれた大きな動きだと思っています。売上も前年対比140%ぐらいになっていると聞いていますので、このコロナの厳しい中で、むしろ、売上を伸ばしている。これも、皆さんの努力だと思っています。

それと皆さんにお願いですけれども、年末年始、「今こそ食べよう！北海道」ということで、各振興局、本当に若手の皆さんが動画を作って発信してくれています。各振興局の皆さん、素晴らしい地域の物を発信していただいています。振興局長を先頭に、本当に感謝しています。この年末年始、どうか、今、大変厳しい生産者、そして飲食店、こういうところを応援するという観点から、一品でも多くの道産品を、皆さん美味しく食べていただきたい。今は特に、どこの物か見て、他の県の物だったら、ちょっと今は北海道の物を食べるということで、力を貸してほしいと思います。そして、今、牛乳も5,000トン、大量廃棄ということで、消費喚起、一生懸命やっただけです。この最悪の事態をみんなで乗り越えて回避していく。その先頭に、道庁という組織が立って取り組んでいく。これが生産者の方に勇気を与えたいと思いますし、我々に求められている行動だと思います。皆さん、お願いばかりで恐縮ですけど

も、どうか年末年始、ゆっくり休んでいただきながら、お酒の前に一杯、牛乳を飲んでいただいて、一杯、牛乳を飲んでもらえれば酔いにくくなるかもしれませんから、それで道産の日本酒、ワインを是非飲んでいただいて、楽しんでいただければと思っています。

コロナを契機として、本当に人々の意識、行動が都会から地方へ、そしてゆとりを求める暮らしということで働き方もシフトをしてきています。そうなるのではないかと言われてきましたけれども、それが現実のものになってきているというのが、今年のトレンドとして見る事ができたと思っています。人の動きで言えば、首都圏からの転出、今までずっと、これをやってきましたけれども、コロナでそういう状況が現実的に、この転出の部分、また企業の本社が脱首都圏ということで移転する、地方へ流れるということが見られた年でした。これは本当に好機だと思っています。感染拡大の備えに万全を期しながら、この社会全体の大きな変化に、みんなでの確に対応して、全国随一の再生可能エネルギーのポテンシャルを活かしたゼロカーボン北海道の実現、そしてデジタル化、DX、デジタルトランスフォーメーション、このようなものも、さらに進めていく挑戦をしていく、皆さんで取り組んでいくことが重要だと思っています。

先週、東京でデータセンターの誘致のためのセミナーを開催しました。これまでも北海道の冷涼な気候、再生可能エネルギー、同時被災リスクの低さ、そういうことで、データセンターの誘致に取り組んできたのですが、さらに今、デジタル田園都市構想ですとか、次世代データセンター、これを国が本腰を入れて1,000億円の予算を付けて取り組んでいくということで、我々が一生懸命取り組んできたデータセンター、これも、まさに今、しっかり取り組んでいくときが来た、より積極的に取り組んでいく時期が来たと思っています。私は、国内最大規模のデータセンターを何とか北海道に誘致したい。グリーン、デジタル、この掛け算の中で象徴的な取り組みだと思っています。この国の進める取り組み、これも追い風にしながら、北海道こそが候補地たる存在だと私は確信していますので、今後、皆さんと力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

明日から年末年始のお休みということに、ほとんどの人がなるのですが、先ほど危機管理監からの話もありました、この年末年始返上で、感染対策、そして危機管理対応に当たる職員の皆さんがいます。本当に皆さんにはご苦勞をおかけします。道民の皆様、暮らしを守るために、年末年始を休み返上で頑張ってください。皆さんに、本当に感謝します。幹部の皆さんには、職員の仕事のローテーションなどの勤務体制、この点については、十分、引き続き気を配っていただければと思っています。

年末年始、帰省、旅行などによって、普段会わない方と会う機会が増えますので、感染リスクがどうしても高くなるという状況があります。道職員、みんなで感染防止対策の実践を率先して、今までもやってきましたけれども、この年末年始も実践していかなければならないと思っています。この点についても、重ねて皆さんによりしくお願いいたします。

本当に皆さん、1年お疲れになったことと思います。まずご自身、そして支えていただいたご家族の皆様、ご健康に留意いただいて、ゆっくり休める方は休んでいただいて、是非、来年に向けた英気を養っていただきたいと思います。皆さんと年明けに元気に再会して、新しい気持ちで、また1年間しっかり頑張りたいと思いますので、そのためにも、ゆっくり休んでいただきたいと思います。

本当に最後、28日仕事納めであります。1年皆さん本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

【浦本副知事】

それでは以上で庁議を終了いたします。お疲れ様でした。